

東北地方 1か月予報

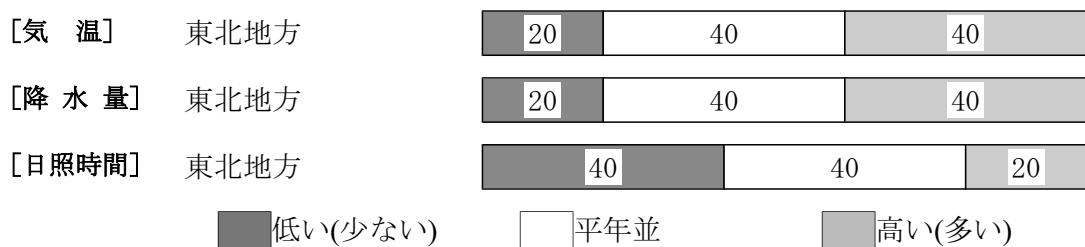
(7月8日から8月7日までの天候見通し)

平成18年7月7日
仙台管区気象台発表

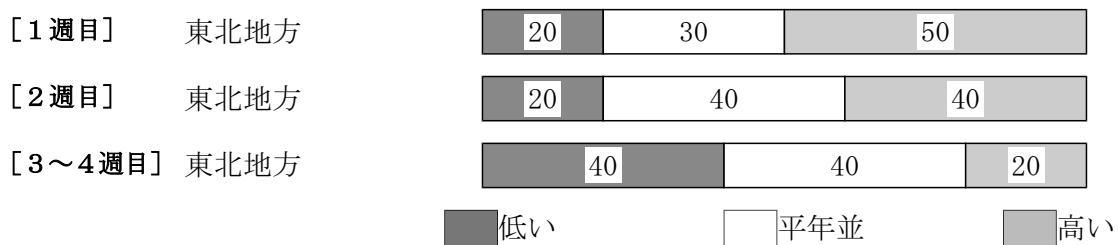
<予想される向こう1か月の天候>

前線や気圧の谷の影響で、東北地方は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
向こう1か月の平均気温は東北地方で平年並か高い、降水量は東北地方で平年並か多い、日照時間は東北地方で平年並か少ないでしょう。
週別の気温は、1週目は東北地方で高い、2週目は東北地方で平年並か高い、3～4週目は東北地方で平年並か低いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 7月 8日(土)～8月 7日(月)
1週目 : 7月 8日(土)～7月 14日(金)
2週目 : 7月 15日(土)～7月 21日(金)
3～4週目 : 7月 22日(土)～8月 4日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は7月14日
3か月予報：7月25日(火) 14時

＜参考資料（平年並の範囲等）＞

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温)

	気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	気温(°C)		
				1週目	2週目	3～4週目
青森	22.1	108.1	185.3	20.2	21.2	23.1
深浦	22.2	149.8	184.9	20.4	21.5	23.2
むつ	20.6	118.7	158.4	18.7	19.7	21.6
八戸	21.2	112.3	175.4	19.2	20.3	22.4
秋田	23.6	172.3	182.1	21.8	22.9	24.6
盛岡	22.6	168.4	152.4	20.9	21.8	23.5
大船渡	21.9	158.5	158.5	20.1	21.1	22.9
宮古	20.9	136.6	157.4	19.1	20.0	22.0
仙台	23.0	155.1	140.9	21.1	22.1	24.0
石巻	22.2	121.5	160.4	20.5	21.4	23.2
山形	24.0	143.3	168.1	22.3	23.3	25.0
新庄	23.1	180.9	166.7	21.4	22.4	24.1
酒田	24.0	177.8	195.5	22.1	23.3	25.1
福島	24.4	141.4	146.6	22.7	23.5	25.4
若松	24.2	153.0	183.4	22.6	23.5	25.1
白河	22.7	188.4	143.1	21.3	22.1	23.5
小名浜	22.5	118.0	170.2	21.0	21.9	23.2

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(°C)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.7	78～116	92～111
東北日本海側	-0.4～+0.5	80～118	91～111
東北太平洋側	-0.3～+0.9	76～117	92～115

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
東北地方	-0.8～+0.7	-0.8～+1.0	-0.4～+1.0
東北日本海側	-0.7～+0.5	-0.8～+0.9	-0.5～+0.8
東北太平洋側	-0.9～+0.8	-0.9～+1.2	-0.3～+1.0

＜参考資料（利用上の注意）＞

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年7月7日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(7月8日~8月7日):

前線や気圧の谷の影響で、東北地方は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(7月8日~7月14日):

気圧の谷や前線の影響で曇りの日が多いですが、晴れの日もあるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

なお、東北太平洋側北部では、はじめ最高気温が低いところがある見込みです。

2週目(7月15日~7月21日):

前線や気圧の谷の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

3~4週目(7月22日~8月4日):

高気圧に覆われて晴れる日もありますが、前線や気圧の谷の影響で、東北地方は平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。一時寒気の影響で低温になることがある見込みです。

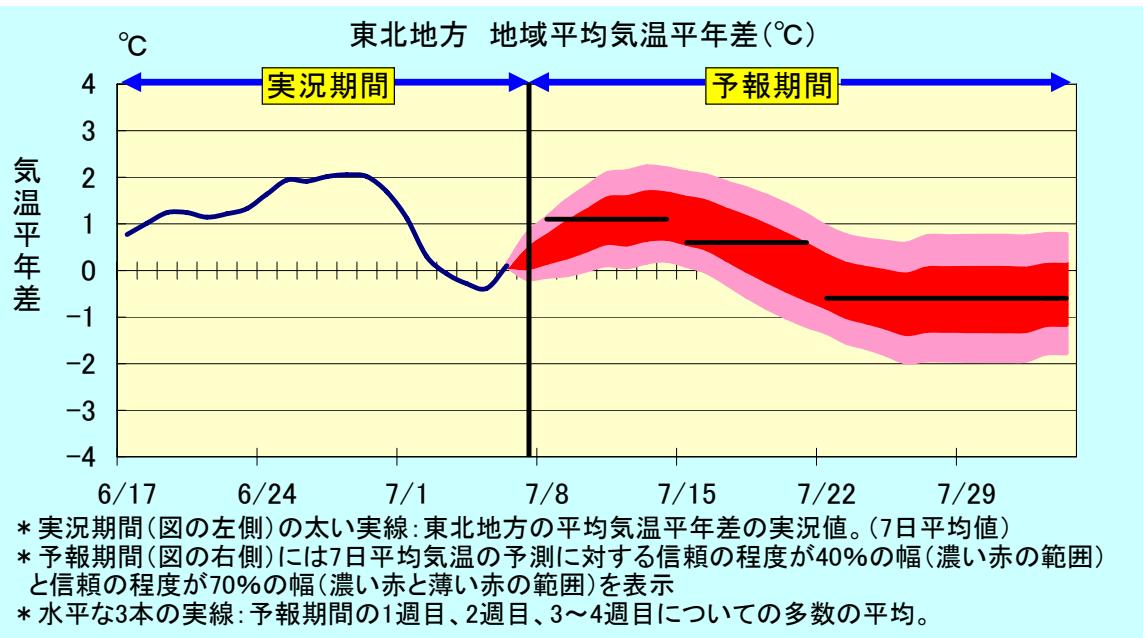
平均気温は平年並か低いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	14.0日	2.7日	3.3日	8.0日
東北太平洋側	12.3日	2.4日	2.7日	7.2日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目を「高い」、2週目を「平年並」、3~4週目を「低い」と予測している。予報は、その他の資料から2週目を「平年並か高い」、3~4週目を「平年並か低い」とする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

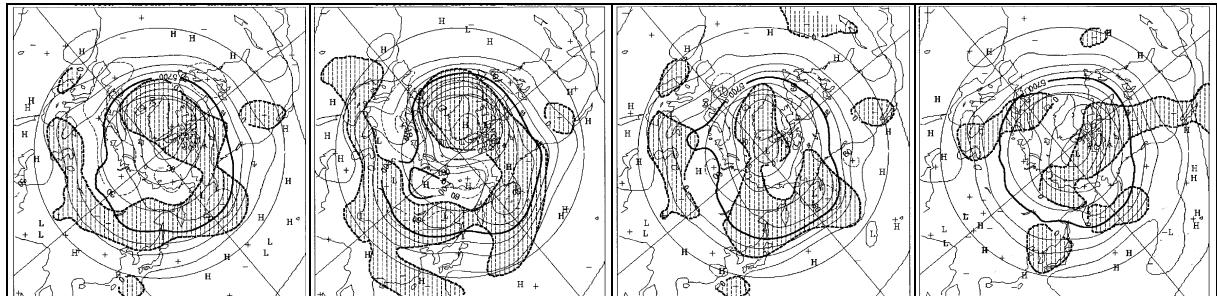


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極付近が正偏差、北緯 50~60 度付近では負偏差となるところが多い。日本の南の亜熱帯高気圧は強い。

1 週目は、日本付近は正偏差で亜熱帯高気圧が北へ勢力を伸ばす。2 週目は、日本の南の亜熱帯高気圧は強いが北緯 40~70 度帶が負偏差。やや西傾向。3~4 週目は、日本付近から中国東北区にかけて負偏差。亜熱帯高気圧は日本の南で強い。日本の北も正偏差。



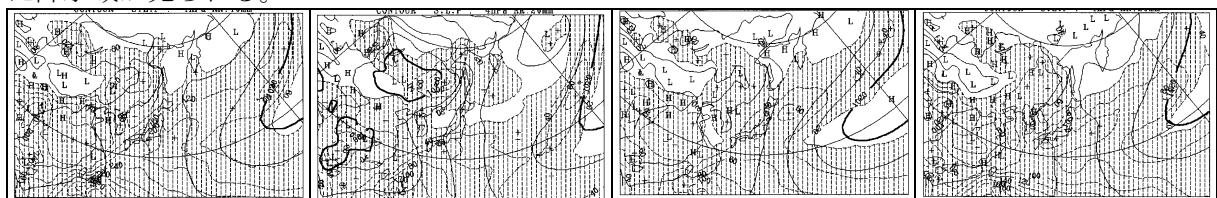
500 hPa 高度予想図（左から）1か月平均、1週目平均、2週目平均、3~4週目平均

実線：等高度線（間隔 60m）、点線：平年差（間隔は1か月 30m、週別 60m）、陰影部：負偏差域（一般に寒気に対応）

地上気圧と降水量：

月平均では、本州南岸を中心にまとまった降水域が広がり、東北地方にもかかる。オホーツク海付近に等圧線のふくらみが見られる。

1 週目は、日本の東から高気圧が張り出し、東北地方の降水域は弱い。2 週目は、太平洋高気圧の日本付近への張り出しは弱い。東北地方には 40mm 以上の降水域がかかる。3~4 週目は、日本の北に高圧部が見られる。太平洋高気圧の日本付近への張り出しは弱く、日本付近にはまとまった降水域が見られる。



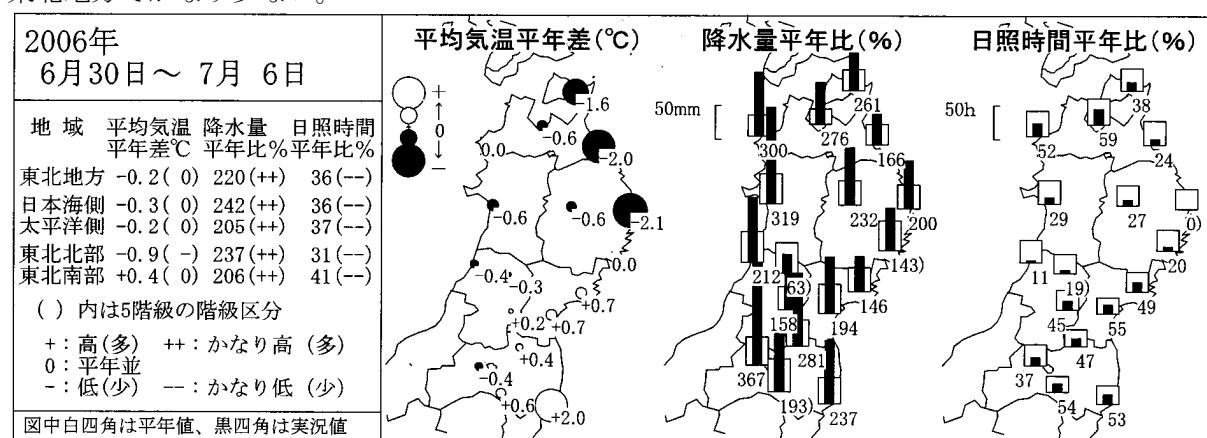
地上予想天気図（左から）1か月平均 1週目平均 2週目平均 3~4週目平均

実線：等圧線（間隔 4 hPa）、陰影部：降水域（1か月 80mm 以上、1週目・2週目 20mm 以上、3~4週目 40mm 以上）

4. 最近 1 週間（6 月 30 日～7 月 6 日）の天候の経過

この期間、梅雨前線や低気圧、オホーツク海高気圧の影響で曇りや雨の日が続いた。2日から3日にかけては、上空に寒気を伴った低気圧の影響で各地で大雨となり、秋田県では土砂災害が相次ぎ、交通機関が乱れた。また宮城県では増水した川に人が転落し一人が死亡した。

平均気温は東北北部で低く、東北南部で平年並。降水量は東北地方でかなり多い。日照時間は東北地方でかなり少ない。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）